

令和4年度第2回食育推進会議次第

日 時 令和4年8月24（水）

午後2時から

場 所 保健センター

1 開 会

2 議 事

(1)進捗状況調査について

3 その他

(1)食育HP委員会より（報告）

(2)小金井市民歯と口の健康について（報告）

(3)その他

4 閉 会

小金井市食育推進会議委員名簿

令和4年8月24日

No.	選出区分	氏名
●市民（5人）		
1	公募市民	まきの 牧野 まや
2	公募市民	ささべ 雀部 かおり
3	公募市民	よこやま 横山 えりこ 英吏子
4	公募市民	せのお 妹尾 かずこ 和子
5	公募市民	おおた 太田 あつたね 篤胤
●学識経験者（2人）		
6	実践女子大学生生活科学部食生活科学科准教授	やまぎし 山岸 ひろみ 博美
7	野菜料理研究家	まつしま 松嶋 あおい
●関係機関の役員又は職員（7人）		
8	小金井市立東小学校栄養教諭	いくま 伊熊 かずや 和也
9	小金井市立小中学校PTA連合会	きたわき 北脇 りえ 理恵
10	小金井市社会福祉協議会	いのうえ 井上 まさこ 正子
11	東京都小金井歯科医師会	はっとり 服部 さとし 聡
12	小金井市農業振興連合会	はぎわら 萩原 ひでゆき 英幸
13	東京むさし農業協同組合小金井支店	さくらい 桜井 つとむ 努
14	小金井市商工会	ほうや 保谷 たくみ 匠
●関係行政機関の職員（1人）		
15	東京都多摩府中保健所	まつもと 松本 ゆうこ 祐子
●市の職員		
16	小金井市福祉保健部長	なかや 中谷 ゆきお 行男

小金井市食育推進計画進捗状況報告（令和3年度実施分）

※1 自己評価（対前年進捗度）について
 A=充実・強化（事業を新たに実施した。または充実した。）
 B=前年度同様（前年度と同様の内容で実施した。）
 C=縮小
 D=未着手（該当事業に取り組まなかった。）

※2 効果があったと思われる食育の視点（該当するものに「○」を付けてください。複数回答可）
 ①（新）食育という言葉や意味を知っている
 ②（旧の①）毎日きちんと朝食を食べる食生活の啓発
 ③（旧の②）家族・友人等と一緒に食事をする意識の育成・啓発
 ④（旧の③）バランスのとれた食事をする等栄養バランスを意識した食生活の啓発 ⑤
 （新）野菜は一日350g摂取を目標とする
 ⑥（旧の④）地場野菜の普及等、地産地消の食生活の啓発・食文化の伝承
 ⑦（旧の⑤）食品ロスの軽減等環境に配慮した食生活の啓発

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる食育の視点 ※2							担当課
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	② (旧の ①)	③ (旧の ②)	④ (旧の ③)	⑤	⑥ (旧の ④)	⑦ (旧の ⑤)	
4 具体的な施策の展開 “Koganei-Style”の地域展開					①啓発活動の充実													
			食育月間・食育の日の取組	<p>●食育行事として、歯科医師会主催の「歯と口の健康」イベントにおいて、下記の取組を実施 パネル展示・・・かみごたえ早見表 参加人数 283人 ●食育の日の取組として毎月19日に乳幼児へ食育に関する記事を配信した。配信者数：1212名</p>	<p>コロナ禍のため、6月の食育月間中の「歯と口の健康」のイベントは延期になり、同年11月29日に市民ホールで関係機関と連携し、限られたスペース（展示（1つ）のみ）で実施。保健センター同様、絵のコンクール入賞作品が展示されたため、家族連れが多かった。今後も可能なら継続したい。乳幼児メールは登録者が増えたため、配信数が増えた。</p>	B	<p>●食育行事として、歯科医師会主催の「歯と口の健康」イベントにおいて、下記の取組を実施 パネル展示・・・ひみこの歯がいーぞ！ 参加人数 275人 ●食育の日の取組として毎月19日に乳幼児へ食育に関する記事を配信した。配信者数：1351名</p>	<p>コロナ禍のため、6月の食育月間中の「歯と口の健康」のイベントは延期になり、同年12月5日に市民ホールで関係機関と連携し、限られたスペース（展示（1つ）のみ）で実施。保健センター同様、絵のコンクール入賞作品が展示されたため、家族連れが多かった。今後も可能なら継続したい。乳幼児メールは登録者が増えたため、配信数が増えた。</p>	B	○								健康課
1			食育月間（6月）及び食育の日（毎月19日）に因み、食育に関するイベント等を行い、市報・市HP・市立保育園、小中学校等で食育の啓発活動を行う。	<p>小金井市立小中学校全校での食育の日の取組 ① 毎月11日は「お箸の日」箸を使ったメニューを提供し、マナーや持ち方等学ぶ機会を作っている。 ② 毎月24日は「小金井和食の日」和食献立を提供し、和食を広めるとともに和食について学ぶ機会を作っている ③ 小金井市の農家で作られている「ルバーブ」が旬を迎えるためルバーブを使用した献立を取り入れた。 手作りルバーブジャム・ルバーブマドレーヌ・ルバーブチキン・ルバーブ蒸しパン・ルバーブのバリバリ揚げ・ルバーブクランブル</p> <p>小金井市立小中学校各校での食育月間の取組 ① 地場産物を使ったメニューの提供 トウモロコシ・とびうお ② 地場野菜を使ったメニューの提供 ルバーブ・小松菜・きゅうり・玉ねぎ・大根・トマト・なす・じゃがいも ③ 季節・行事にちなんだ料理の提供 ・図書コラゴ給食・世界の料理・郷土料理</p>	<p>今後も継続していく。</p>	A	<p>小金井市立小中学校全校での食育の日の取組 ① 毎月11日は「お箸の日」箸を使ったメニューを提供し、マナーや持ち方等学ぶ機会を作っている。 ② 毎月24日は「小金井和食の日」和食献立を提供し、和食を広めるとともに和食について学ぶ機会を作っている ③ 小金井市の農家で作られている「ルバーブ」が旬を迎えるためルバーブを使用した献立を取り入れた。 手作りルバーブジャム・ルバーブといちごのジャム・ルバーブとブルーベリーのジャム・ルバーブマドレーヌ・ルバーブといちごのマドレーヌ・ルバーブチキン・鶏のからあげルバーブソース・ルバーブチーズケーキ・ルバーブとクリームチーズのバリバリ揚げ・ルバーブクランブル</p> <p>小金井市立小中学校各校での食育月間の取組 ① 地場産物を使ったメニューの提供 トウモロコシ・とびうお ② 地場野菜を使ったメニューの提供 ルバーブ・小松菜・きゅうり・玉ねぎ・大根・トマト・なす・人参・ねぎ・にんにく・ほうれん草・じゃがいも ③ 季節・行事にちなんだ料理の提供・図書コラゴ給食・世界の料理・郷土料理</p>	<p>今後も継続していく。</p>	A	○	○	○	○				学務課	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課				
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※ 1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)					
1	34	1	食育月間・食育の日の取組	食育月間（6月）及び食育の日（毎月19日）に因み、食育に関するイベント等を行い、市報・市HP・学校等で食育の啓発活動を行う。	<p>けやき保育園</p> <ul style="list-style-type: none"> 旬の野菜の紹介 目的 季節の野菜や果物などの実物を見て興味を持つ 給食でも提供する（とうがん、アスパラ、ズッキーニ等） ・包丁、ピーラー指導（動画） 目的 安全な包丁、ピーラーの使い方をしる 調理することに興味を持つ ・家庭でできる簡単クッキング（乳・卵アレルギー対応）（動画） 目的 家庭で過ごす時間が長くなっていたので、親子で簡単にできるクッキングの紹介をする ・新メニューの開発と試作 ・小金井特産のルバーブを使用したおやつ の提供、ルバーブの見る 目的 小金井市の地場野菜を知る、食材に興味を持つ くりのみ保育園 ◎0歳クラス懇談会 ・栄養士から離乳食の進め方についての話をしました。離乳食サンプルを掲示し、形態や食具を見てもらいました。（6世帯） ◎季節の食材及びメニューの提供 ・2種のジュース（ぶどう・りんご）を使用して、あじさいに見立てた『あじさい寒天』をおやつとして提供しました。（全園児） ・おやつのかきその場で一人ひとりに粉糖をかけたり、イチゴをトッピングしたりして提供しました。 ◎幼児クラスクッキング ・ラップを使用し、自分で握ったおにぎりをおやつで食べました。 ◎歯と口の健康習慣に伴うメニュー提供とPOP掲示 ・切干大根や大豆などのよく噛むことができる食材を使用したメニューを提供しました。またなぜよく噛んで食べることが良いのかというPOPを給食サンプル付近に掲示しました。 ・その日の人気メニューのレシピを掲示し、プリントし持ち帰れるようにしました。 ・七草粥の七草を由来などとともにPOPに掲示しました。 ◎園庭で育てた野菜を適宜給食に使用 ・なす、ピーマン、ブロッコリーを幼児クラスで育てて収穫し、給食室で調理し、食べました。 ・5歳児はジャガイモを4歳児の時に植え、スイカとメロンも育て、収穫し給食室で調理してもらい食べました。 	今後も継続していきたい。	B	<p>けやき保育園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じゃが芋掘り 目的 土に親しむ、じゃが芋に興味を持つ、収穫する喜びを味わう 掘ってきた芋を翌日のおやつにゆでじゃがとして提供、自分たちで収穫したじゃが芋が料理され、食べ物に興味を持つ ・年長児に向けて包丁、ピーラー指導（動画） 目的 わくわく会に向け、安全な包丁、ピーラーの使い方をしる。 調理することに興味を持つ ・新メニューの開発と試作 ・豚汁クッキング 目的 お泊り会に向けて、包丁、ピーラーを使用する みんなで食べる料理を自分達で作る事により自信に繋げていく 食材や調理過程に興味を持つ ・小金井特産のルバーブを使用したおやつ の提供、ルバーブを実際触ってみる実物をみる 目的 小金井市の地場野菜を知る、食材に興味を持つ ・地域育児支援事業「なのはなひろば」 目的 地域の0歳児と保護者を対象に離乳食の情報提供、栄養相談に乗る くりのみ保育園 ◎0歳クラス懇談会 ・栄養士から離乳食の進め方についての話をしました。離乳食サンプルを掲示し、形態や食具を見てもらいました。 ◎季節の食材及びメニューの提供 ・2種のジュース（ぶどう・りんご）を使用して、あじさいに見立てた『あじさい寒天』をおやつとして提供しました。（全園児） ・おやつのかきその場で一人ひとりに粉糖をかけたり、イチゴをトッピングしたりして提供しました。 ◎幼児クラスクッキング 掘ってきたさつまいもを使ってスイートポテトを作りおやつで食べました。 ◎歯と口の健康習慣に伴うメニュー提供とPOP掲示 ・その日の人気メニューのレシピを掲示し、プリントし持ち帰れるようにしました。 ・七草粥の七草を由来などとともにPOPに掲示しました。 ◎園庭で育てた野菜を適宜給食に使用 ・なす、ピーマン、トマト、サトイモ、ブロッコリー、小松菜、カブを幼児クラスで育てて収穫し、給食室で調理し、食べました。 ・5歳児はジャガイモを4歳児の時に植え、収穫し給食室で調理してもらい食べました。 	今後も継続していく。	B	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	保育課
				<p>さくら保育園</p> <p>日頃から給食食材を納品してもらっている業者さんの顔写真を撮り、小金井市の地図のお店のある場所に顔写真と業者さんの特技などを書いたものを、園児や送迎の保護者のも見てもらえるように、給食室前に掲示している。防犯対策にもなっている。（年間）</p> <p>旬野菜を使った献立・・・あじさいゼリー・冷やし中華・アジフライ・麻婆なす・枝豆ごはん・ズッキーニのナムル・夏野菜カレー・焼きアスパラ・オクラの天ぷら</p> <p>※旬の野菜は意識的に献立に入れるようにしている。</p> <p>地場野菜・・・小金井市はルバーブを地場野菜としていることを幼児クラスを対象に伝え、その日のおやつにルバーブソースを提供</p> <p>ジャガイモ掘り・・・例年行っているが、新型コロナウイルスの影響により中止</p> <p>クッキング・・・例年行っているが、新型コロナウイルスの影響により年間を通して中止</p>			<p>さくら保育園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から給食食材を納品してもらっている業者さんの顔写真を撮り、小金井市の地図のお店のある場所に顔写真と業者さんの特技などを書いたものを、園児や送迎の保護者のも見てもらえるように、給食室前に掲示している。 ・給食で提供したレシピを写真で紹介したり、保護者が家庭で作ることができるように持ち帰り用のレシピを用意した。 ・旬野菜を使った献立を意識的に献立に入れるようにしている。 ・ジャガイモ掘り（幼児クラス）・サツマイモ掘り（年長児）を行い、自分たちで収穫したものを食べる経験をした。 ・年長児が野菜を育てて、収穫した野菜を給食で食べた。 ・クッキングは、幼児クラスが年齢別やクラス別で行った。年長児のパン作りでは生地作りから行い発酵の過程なども子どもたちが見ることができた。（その他、餃子パイ・クッキー・ピザ） 	今後も継続していく。														

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)	
1	34	1	食育月間・食育の日の取組	<p>食育月間（6月）及び食育の日（毎月19日）に因み、食育に関するイベント等を行い、市報・市HP・学校等で食育の啓発活動を行う。</p> <p>わかたけ保育園 ○季節の食材を使った給食の提供 ○子どもたちの前で料理の最後の仕上げをする。 (サラダの味付けをする、ジャムサンドを作る、ゼリーの切り分け、大きな天板で焼いたケーキを切り分ける) ○行事食の提供 (七夕：星の子スープ、1月7日：七草がゆ、節分：照り大豆とじゃこのごはん・めざしのから揚げなど) ○味付けやふりかけの味を選んで食べる、選べるランチ ○子どもたちの喜ぶ盛りをしたカレーライス（星形、クマ型など） ○魚の解体教室をし命を頂くことに触れる ○野菜を育てる、収穫した野菜を給食で食べる</p> <p>小金井保育園 ・近所の畑にてじゃが芋掘り体験をしました（幼児） ・スイカ・メロンをくり抜き、おやつフルーツポンチのボウルとして提供しました。</p>	今後も継続していきたい。		<p>わかたけ保育園 ○季節の食材を使った給食の提供 ○子どもたちの前で料理の最後の仕上げをする。（お好み焼きのトッピングをする、ハンバーガーのソースを選んでもらいその場でぬるなど） ○5歳児に向けて包丁・ピーラー指導 ○5歳児クッキング（マヨネーズトースト、きりたんぼ汁、豚汁、カレーライス） ○4歳児クッキング（ピザトースト、きりたんぼ汁） ○行事食の提供 (七夕：星の子スープ、1月7日：七草がゆ、節分：大豆とじゃこのごはん・めざしのから揚げなど) ○子どもたちの喜ぶ盛りをしたカレーライス（星形、クマ型など） ○魚の解体教室をし命を頂くことに触れる ○野菜を育てる、収穫した野菜を給食で食べる</p> <p>小金井保育園 ・近隣の畑にてじゃが芋掘り体験をしました（幼児） ・スイカ・メロンをくり抜き、おやつフルーツポンチのボウルとして提供しました。 ・幼児クラスの子どもたちで豚汁づくりをして、食べました。（年齢に応じて、食材ちぎり・皮むき・包丁を用いて食材切り）</p>	B	今後も継続していく。		○	○	○	○	○	○	○	保育課
2	34	2	小金井らしい食生活の推進	<p>乳幼児から高齢者までを対象にした講座の開催等を通じて、野菜を中心とした栄養バランスの良い食生活を推進する。</p> <p>離乳食教室（137名）、栄養講習会（17人）、フォローアップ教室（29人）等でバランスのよい食生活の啓発を行った。多くの事業自体の中止、調理や飲食の禁止、定員の変更（およそ半数）等で集客も難しい状況だった。</p>	離乳食教室は必要性が高いため、今後も継続、栄養講習会は飲食が可能になるまでは、調理実習抜き講義とデモンストレーション等で継続。フォローアップ教室の栄養関係も同様。	C	<p>離乳食教室（348名）、栄養講習会（39人）、フォローアップ教室（33人）等でバランスのよい食生活の啓発を行った。一部事業の中止及び昨年引き続き定員の変更（およそ半数）、試食なしで講義とデモンストレーション、見本で実施。参加者が増えてきた。</p> <p>離乳食教室は必要性が高いため、今後も継続、栄養講習会は飲食が可能になるまでは、調理実習抜きの講義とデモンストレーション等で継続。味以外の部分は現在の方法でもアンケート結果などから伝わっていると思われる。フォローアップ教室の栄養のみの日も昨年は中止だったが、他の講習会同様で実施したい。</p>	B		○	○	○	○	○	○	○	健康課	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課			
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)				
3	34	3	農業祭等での啓 発活動	農業祭等で食育に関するプ ースを作る等、啓発活動を行 う。	令和2年度から、農・商工業・観光一体と なったイベント「こがねい産業まつり」 を開催予定であったが、新型コロナウイルス 感染症感染拡大防止のため規模を縮 小し、物販のみのイベントを開催した。 農産物の出品や絵画コンクール、カレン ダーの作成は実施しなかった。	■農業祭 令和3年度以降、既存の農業祭の会場に 駅前再開発によりできたスペースを加え たエリアを活用し、商工会や観光まちお こし協会と連携して農・商工業・観光一 体となったイベントの開催を検討してい る。引き続き、新型コロナウイルス感染 症の状況を踏まえながら、開催方法を検 討していく。 ■農業絵画コンクール・食育カレンダー 令和3年度は、実施することが決定して いるが、引き続き、新型コロナウイルス 感染症の状況を踏まえながら、実施方法 を検討していく。	C	令和2年度から、農・商工業・観光一体と なったイベント「こがねい産業まつり」を開 催予定であったが、新型コロナウイルス感 染症感染拡大防止のため規模を縮小し、物販の イベント及び絵画コンクール、カレンダーの 作成を実施した。 ■農業絵画コンクール 出点数：220点（令和元年度224点） 入賞数：32点 表彰式：令和3年12月4日 ■食育カレンダーの作成 作成数：900部 配布先：入賞者、市内公立小学校等 経済課窓口他	■農業祭 既存の農業祭の会場に駅前再開発によ りできたスペースを加えたエリアを活用 し、商工会や観光まちおこし協会と連携 して農・商工業・観光一体となったイベ ントの開催を検討している。引き続き、新 型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ ながら、開催方法を検討していく。 ■農業絵画コンクール・食育カレンダー 令和4年度も実施することが決定してい るが、引き続き、新型コロナウイルス感 染症の状況を踏まえながら、実施方法を 検討していく。	C											経済課
				農業祭は中止。	農業祭が再開されれば継続したい。	D	農業祭は中止。	農業祭が再開されれば継続したい。	D	○	○	○	○	○	○	○	○	○	健康課		

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課	
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)		
4		4	資源循環（エコ）教室の推進	土作り、種まき、野菜の収穫、野菜くずを出さない環境に配慮した料理教室の一連の流れを実際に体験し、循環型社会について学ぶ。	新型コロナウイルスの影響により中止。ごみを出さないエコクッキングは講座と調理方法の動画を制作し、小金井市公式YouTubeに掲載した。	B	1回目収穫体験・土づくり、2回目苗植え・種まき、3回目収穫・ハーブの寄せ植え 1回目8/21 参加者7名 2回目9/5 参加者8名 3回目11/28 参加者9名	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、エコクッキングは実施しなかったものの、代替として料理用ハーブの寄せ植えを実施した。今後も感染予防を行いつつ事業を充実させる方策を検討していく。	B	○								ごみ対策課	
5		5	夏休み生ごみ投入リサイクル事業	夏休み期間中、家庭から出た生ごみを小中学校に設置された生ごみ処理機に投入することができる。希望者にはリサイクル堆肥を配布する。	新型コロナウイルスの影響により中止。代わりにボランティアの自主事業である土曜生ごみ投入を夏休み期間も引き続きおこなっていただいた。	D	実施校 6校 (1小、前原小、緑小、南小、1中、2中)	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施することができなかったが、令和3年度は感染予防に努めつつ実施することができた。ボランティアの高齢化等により事業全体が縮小傾向にある。今後、運営方法や事業規模について関係者等と調整する必要がある。	B										ごみ対策課
6		6	食品リサイクル堆肥	市立小中学校・保育園、障がい者センター、集合住宅に設置した大型生ごみ処理機及び各家庭で使用している生ごみ処理機から生成される生ごみ乾燥物を回収し、食品リサイクル堆肥を製造。市民及び市内農家等へ配布する。	■市民向けに収穫体験を実施（全3回。参加者：①5人②24人③17人、計46人）。※6回の子定だったが、3回雨天等のため中止。 ■公務員宿舎に設置された生ごみ処理機利用者、家庭用生ごみ処理機から出る生ごみ乾燥物の戸別回収を実施している世帯及び土曜生ごみ投入参加者を対象に収穫体験を実施（全4回。参加者：①4人②5人③5人④3人、計17人）。	B	市施設、市民、戸別・拠点、集合住宅の投入量合計（生ごみ換算） 231,245kg 市民・農家への堆肥配布（随時）及び資源循環事業での使用（収穫体験計8回、資源循環教室：全3回）	令和2年度まで行っていた保育園児向けの講座は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。令和4年度は感染状況を鑑みながら事業の実施をしていきたい。	B										ごみ対策課
7	34	7	フードドライブ	家庭で余っている食品を拠点回収し、NPO団体及び社会福祉協議会を通じ、福祉施設等に届けるとともに、食品ロスを削減する。	実施回数：11回 参加人数：延べ137人 食品回収量：487キロ	B	実施回数：12回 参加人数：延べ221人 食品回収量：865.4キロ	毎月第2水曜日の午後2時～3時半の間、社会福祉協議会敷地内でフードドライブを実施した。回収した食品は生活困窮者世帯や子ども食堂などに届けられるよう社会福祉協議会に引き渡し、市内循環を図っている。今後も利用者拡大を目指し周知啓発に努め継続実施していく。	B										ごみ対策課
8		8	食品ロス削減推進協力店・事業所認定制度	食品ロスと食べ残しの削減に積極的に取り組んでいる飲食店等を食品ロス削減推進協力店（または協力事業所）として認定し、市民に制度について周知することで、食品ロス削減の重要性についての理解と関心を深め、市民・事業者・行政が連携協力をして食品ロスの削減に向けた取組を促進する。	認定店12件	A	認定店14件	飲食店は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、営業日・営業時間等の変更が余儀なくされているが、その中でも関わらず、申出をいただき認定することができた。今後は、認定店（認定事業所）数の増加と、市民へのより効果的な周知方法について検討し、食品ロスの削減に寄与していく。	B										ごみ対策課
9		9	食品ロス削減月間の取組	食品ロス削減月間（10月）に、日常生活の中で無理なく実践できる食品ロスの削減に向けた取組の一つとして「すぐに食べる物を購入する場合は、手前に置いてあるもの（期限が近い物）から取る」ことを消費者である市民に促したり、ポスターの掲示などを行い、食品ロスを削減すると同時に食品ロスは身近で発生しているということを意識づけ、食資源を大切にすることを啓発する。			市内セブンイレブン全店への手前どりPOPの掲出	今後は、セブンイレブンや協力店以外の店舗にも食資源を大切にするための啓発に協力いただけるよう広めていきたい。	A										ごみ対策課

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)	
“Koganei-Style”の地域展開 ②情報の整備											①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
10	35	1	食育市民アンケート調査	市民の食育の実態を把握するため、本計画終了前年度にアンケート調査を実施する。	令和2年10月末に無作為抽出の市民2000人に対し発送。小中学生については、令和2年11月～12月に小中2校ずつ小学校4年生と中学1.2年生に行った。	A	市民アンケート調査は策定の前年に行うため、実施なし	次回アンケートは令和4年度に実施する予定。近くなったらアンケート項目などを指標と合わせていきたい。										健康課
11	35	2	食育ホームページ	市民ボランティアによる編集委員会を開催し、地域の食育及び食生活に関する情報を幅広く提供する。	市内小中学校との相互リンク済数 小学校8校 中学校4校	B	市内小中学校との相互リンク済数 小学校8校 中学校4校 またレシピの追加や「おうちで作ってみよう」を掲載。健康課では、新規の記事をできる範囲でツイッターに掲載。さらに多くの市民の方に周知するため、健康課窓口及び各事業、成人式で食育HPのちらしを配布した。会議はコロナ禍の中では、ほぼwebで行われた。	食育ホームページ編集委員会と協力し、市内の食育活動を中心に情報提供を継続して行く。またHPの広報チラシの配布先は、健康課事業や窓口のみでは、限られるため、令和4年度当初には、公民館5館及び経済課窓口、小金井市まちづくり観光協会（窓口、駅等）においていただく予定である。また、編集委員が減ったため、新規に委員を募集する予定である。	A								健康課	
12	35	3	食育ホームページ	関係各課の食育に関する事業を紹介する。	市報に掲載する食育事業や、各児童館の食育イベントを紹介した。またレシピの追加や「おうちで作ってみよう」を掲載。	A	市報に掲載する食育事業や、各児童館の食育イベントを紹介した。	今後も市報や市ホームページと同様に事業の掲載を継続したい。	A									健康課
13	35	4	地場野菜等の情報提供	地場野菜等の種類・発売時期・発売場所等の情報を食育ホームページ等で提供する。	市報等で庭先直売所を掲載し、広く市民への周知に努めた。令和3年度は、長年の課題であった庭先直売所マップ（冊子）の更新を行う。市報等では掲載できなかった販売している農産物の情報等も掲載していく。 令和3年度以降についても、庭先販売所の情報収集しながら、更新性を高めていく。	B	■庭先直売所マップ 庭先直売所マップ作成・配布・ホームページ掲載 作成数：6,000部 配布先：生産者、J A、経済課窓口他 市報6月1日号に掲載 食育HPに地図のみ掲載 経済課窓口にて設置・配布 わたしの便利帳に掲載	約10年ぶりに庭先直売所マップ（冊子）を更新し、市報等では掲載できなかった販売している農産物の情報等も掲載した。経済課窓口の他、市内各施設等に設置。その他、市報等で庭先直売所を掲載し、広く市民への周知に努めた。 令和4年度以降についても、庭先販売所の情報を収集しながら、更新性を高めていく。	A								○	経済課
					季節に応じて収穫できる野菜の紹介やその野菜を使用したレシピの紹介の追加や写真の撮り直しなどを行った。	関係機関と連携を図りながら、充実した情報提供の場となるよう継続して実施する。	A	季節に応じて収穫できる野菜の紹介やその野菜を使用したレシピの記事を追加した。また、経済課の庭先販売所マップや昨年は中止だった農業カレンダーの編集にも協力した。	関係機関と連携を図りながら、充実した情報提供の場となるよう継続して実施する。	A								

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課		
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)			
“Koganei-Style” の地域展開					③各種団体等の食育推進に対する促進策						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
14	35	1	食育ホームページの活用	各種食育活動や食育コーディネーター実績の紹介等、情報発信を行う。	小金井市食育ホームページ内で地域の食育活動や野菜のレシピの紹介等、食に関する情報を掲載している。新着記事を健康課のツイッターで紹介した。またHPの紹介のちらしを成人式でも配布した。	A	多くの方に、小金井市食育ホームページを認知してもらえ、チラシも工夫して事業等で周知していくとともに、さまざまな視点で「食」について伝えられるよう、引き続き充実を図る。	小金井市食育ホームページ内で地域の食育活動や野菜のレシピの紹介等、食に関する情報を掲載している。	多くの方に、小金井市食育ホームページを認知してもらえ、チラシも工夫して事業等で周知していくとともに、さまざまな視点で「食」について伝えられるよう、引き続き充実を図る。	A	○	○	○	○	○	○	○	健康課		
15	35	2	食育関連の人材の活用	市内の食育関連の人材を活用して市民協働による食育の推進を行い、関係機関の連携を図る。	令和2年度は新しい食育ちらしの編集を行った。	A	今後も、市民ボランティアの方々と協働して食育推進を図れるよう引き続き努めていく。	庭先販売マップや農業カレンダーの記事について協力をいただいた。	今後も、市民ボランティアの方々と協働して食育推進を図れるよう引き続き努めていく。また令和4年には、新しい市民ボランティアを募集する予定である。	A	○	○	○	○	○	○	○	健康課		
16	35	3	親子農業体験の促進	生産体験の機会促進に向け、農業経営者クラブが実施する「親子農業体験」の周知を図る。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実施せず。	D	令和3年度は、親子で農業に親しんでいただけの機会を提供できるよう、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、開催方法を検討し実施する。	■親子収穫体験（ダイコンの収穫体験） 対象：親子 参加数：20組（60人）参加 会場：東町の畑	令和3年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から収穫のみとなったため、令和4年度は、収穫した農産物の試食も含めて、親子で農業に親しんでいただける機会を提供できるよう、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、開催方法を検討し実施する。	B						○		経済課		
17	35	4	学童収穫体験の促進	生産体験の機会促進に向け、農業振興連合会が実施する「学童収穫体験」への支援を行う。	ジャガイモ等の学童収穫体験 対象：市内公立小学校9校 もくせい教室 期間：令和2年6月から10月まで 参加数：1,690人 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止等のため、例年実施している収穫体験を中止した学校が一部あったが、中止となった学校へは、児童数分の収穫品を届けることで、地場産野菜を味わい、身近な農への関心を高める機会とした。	B	中止した学校以外の実施については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、極力生徒が密集しないよう学年・クラスを分散させる方法や生徒同士の間隔を開ける等の対応により実施した。その為、通常より時間を要し、農家による説明も複数回に渡る等、協力農家への負担が増大した。	ジャガイモ等の学童収穫体験 対象：市内公立小学校9校 もくせい教室 期間：令和4年6月から10月まで 参加数：1,763人 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止等及び雨天により例年実施している収穫体験を中止した学校が一部あったが、中止となった学校へは、児童数分の収穫品を届けることで、地場産野菜を味わい、身近な農への関心を高める機会とした。	中止した学校以外の実施については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、極力生徒が密集しないよう学年・クラスを分散させる方法や生徒同士の間隔を開ける等の対応により実施した。その為、通常より時間を要し、農家による説明も複数回に渡る等、協力農家への負担が増大した。 協力農家への負担も考慮し、引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、継続して実施する。	B							○		経済課	
18	35	5	地場野菜等の販売促進	新鮮で安全な地場野菜等の販売促進を目指して、庭先直売所の周知や、生産者、JA、事業者等の連携を推進する。	■庭先直売所マップ 市報や食育HP等でPRを実施 ■JAファーマーズ・マーケットの後援 春の園芸市や年末年始の地場産農産物の販売に係るイベントを後援した。 ■学校給食 地場産農産物の積極的導入を図るため、学務課、健康課、経済課、栄養士、JA、生産者の会議を1回、目合わせ会を1回実施した。	B	学校給食への地場産野菜の積極的導入を図るため給食会議を1回、目合わせ会を1回実施した。前年度も野菜の規格についての認識のズレからのトラブルが発生していたが、令和2年度も野菜の品質の良くないものが納品されるトラブルが発生していることから、目合わせ会等共通の認識がもてるような機会を開催し、より多くの地場産農産物を導入してけるよう課題の整理・解決に取り組んでいく。	■庭先直売所マップ 市報や食育HP等でPRを実施 庭先直売所マップ作成・配布 ■JAファーマーズ・マーケットの後援 春の園芸市や年末年始の地場産農産物の販売に係るイベントを後援した。 ■学校給食 地場産農産物の積極的導入を図るため、学務課、経済課、栄養士、JAで給食用野菜の生産農家圃場の見学会を実施した。	野菜の規格についての認識のズレからのトラブルが発生していたが、令和3年度も野菜の品質の良くないものが納品されるトラブルが発生していることから、目合わせ会等共通の認識がもてるような機会を開催し、より多くの地場産農産物を導入してけるよう課題の整理・解決に取り組んでいく。	B								○		経済課
					歯と口の健康イベントは配布なし。農業祭は中止。	D	それぞれのイベント等がいつもどおり再開されれば継続したい。	歯と口の健康イベントは配布なし。農業祭は中止。健康課栄養事業内でのみちらしを配布した。また、夏休みの栄養講習会（学務課との合同事業）で地場野菜について講義でふれた。	令和3年度末に完成した庭先販売マップについては、令和4年度当初に健康課で関係機関に第4次食育推進計画を配布するときに一緒に配布する予定である。	C							○	○	健康課	
19	36	6	料理講習会	地産地消を推進するため、農業経営者クラブと連携し、地場産野菜を利用した料理教室を実施する。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実施せず。	D	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、安全で安心できる食生活の実現に向け、新鮮で安全な地元野菜を市民に周知できるようJA女性部と実施内容、開催方法を検討する。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実施せず。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、安全で安心できる食生活の実現に向け、新鮮で安全な地元野菜を市民に周知できるようJA女性部と実施内容、開催方法を検討する。	D									経済課	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課	
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)		
20	36	7	新たな特産物の普及促進	JAなどと連携し、ルバーブなど新たに特産化の可能性がある農産物の情報を生産者へ提供する。	■地場産野菜を使用した料理教室 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実施せず。 ■学校給食 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止から学校給食を中止していた期間もあり、ルバーブパンを給食で提供できなかったが、ルバーブジャムをはじめ、マドレーヌ、蒸しパン、から揚げのソースなどルバーブ普及の取組みについてJAや生産者に情報提供を行った。	B	■地場産野菜を使用した料理教室 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実施せず。 ■学校給食 ルバーブパンを年に1回、市内公立小中学校全校で提供。その他各小・中学校でルバーブジャム・ルバーブチキン・ルバーブクランブル・ルバーブチーズケーキ・ルバーブといちごのマドレーヌ ルバーブマドレーヌ・ルバーブとクリームチーズのバリバリ揚げ・鶏のから揚げルバーブソース・ルバーブといちごのジャムなどを提供。	ルバーブの取組みについては進められているが、ルバーブ以外の特産化の取組みはできていない。	ルバーブの取組みについては進められているが、ルバーブ以外の特産化の取組みはできていない。	B							○		経済課
21	36	8	生産者との交流促進	生産者との交流や生産体験の機会として、農地等の見学会を行う。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実施せず。	D	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実施せず。	令和3年度以降は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、生産者との交流や生産体験機会を通して身近な農業の大切さを感じていただける取組を継続していく。	令和3年度以降は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、生産者との交流や生産体験機会を通して身近な農業の大切さを感じていただける取組を継続していく。	D							○		経済課
22	36	9	野菜収穫体験	食品リサイクル堆肥を使って育てた野菜の収穫体験を行う。	■市民向けに収穫体験を実施（全3回。参加者：①5人②24人③17人、計46人）。 ※6回の予定だったが、3回雨天等のため中止。 ■公務員宿舎に設置された生ごみ処理機利用者、家庭用生ごみ処理機から出る生ごみ乾燥物の戸別回収を実施している世帯及び土曜生ごみ投入参加者を対象に収穫体験を実施（全4回。参加者：①4人②5人③5人④3人、計17人）。	B	■市民向けに収穫体験を実施 全4回（参加者：①15名②9名③8名④16名） ■公務員宿舎に設置された生ごみ処理機利用者、家庭用生ごみ処理機から出る生ごみ乾燥物の戸別回収を実施している世帯及び土曜生ごみ投入参加者を対象に収穫体験を実施 全4回（参加者：①3名②3名③3名④4名）	市民向けの収穫体験では、当事業を知らない方が多く、資源循環の説明を併せてすることで、ごみの減量及び資源循環の理解が深まった。 生ごみ処理機を利用されている方向けの収穫体験では、普段からごみ減量への意識が高く、堆肥の使い方の質問も多かった。 昨年度まで行っていた保育園児向けの講座は新型コロナウイルスの影響により中止。令和3年度は感染状況を鑑みながら事業の実施をしていきたい。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みながら事業の実施をしていきたい。	B							○		ごみ対策課
23	36	10	保育園出張講座	公立保育園の園児を対象に資源循環の紙芝居と食品リサイクル堆肥を使ったプランター野菜の収穫体験を行う。			新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みながら事業の実施をしていきたい。	B							○		ごみ対策課

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課				
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)					
生涯にわたる食育推進 ①乳幼児と保護者の食育推進																						
ア保健センター																						
24	37	1	マタニティクッキング	妊婦とそのパートナー等に妊娠期間における栄養の摂り方等の講義・実習・試食を行う。	実施回数：なし（全て中止）	緊急事態宣言外も学ぶ場としてだけでなく、いろいろな情報を共有できる場として需要があると見込まれるので調理実習ができなくても継続していきたい。	D	実施回数：2回6人 (平日2回、土曜日2回だったが、予防接種事業のため、平日2回となった。)	産休に入るまで動いている方が多いため、令和4年度は、両親学級と重ならないようにしてすべて土曜日で対応したい。また、両親学級の参加で家族2人で参加する方を望む方が多いことから1家庭2名までとした。	C									健康課			
25	37	2	両親学級	妊婦とそのパートナー等に各種講義を行う中で栄養講義を行う。	実施回数：7回（平日2回土曜日5回） 参加者数：妊婦105人、パートナー93人	プログラム内容や定員を減らしての実施のため、パートナーの実習はなくなり、講義のみとなった。令和3年度から妊産婦の食事指針の中で体重増加量が変わったので食事の大切さを伝えるためにも継続出来たらと思う。	C	実施回数：4回（平日、土曜日のプログラムに栄養は入らないため。） 参加者数：妊婦44人、パートナー8人（実習中の密を避けるため、各家庭1名）	令和4年度より、平日と土曜日のプログラムが同じになることになり、土曜日に栄養の講義ができることになったので受講者の増員が見込まれる。	B									健康課			
26	37	3	離乳食教室	生後4～5、6～7、8～11か月児と対象を分け、それぞれの保護者を対象に離乳食の講義、試食を行う。ただし、4～5か月については、集団健診内で行うこともある。	離乳食教室（2回食） 実施回数：7回 参加者数：46人 離乳食教室（3回食） 実施回数：7回 参加者数：91人	プログラム内容（試食なし、時短）や定員を減らしての実施だが、感想には、話を聞いてよかったが多く、また電話等での問合せも多いことから今後も継続すべき事業。	C	離乳食教室（1回食） 実施回数：24回（同日に2回） 参加者数190人 離乳食教室（2回食） 実施回数：12回 参加者数：83人 離乳食教室（3回食） 実施回数：12回 参加者数：75人	2年間どの教室も定員を9人にしてきたが、1～2年のキャンセル待ちが多いので他の講習会と同様10人とする。また新たに1回食の教室（1回10人×2回/日）を開催	B									健康課			
27	37	4	乳幼児食育メール	健康ナビ登録者から希望者に対し、メールにて食育等の情報提供を行う。	配信回数：毎月1回配信 登録者数（配信可能数）：1212人 0～1歳561人、2～3歳468人、4～5歳183人	メールの中で健康課事業の栄養以外の事業案内も掲載するようにしているが、今後も登録者に限られたスペースで多くの情報の提供ができるよう、継続していきたい。	B	配信回数：毎月1回配信 登録者数（配信可能数）：2189人 0～1歳783人、2～3歳859人、4～5歳547人	今後も限られたスペースで多くの情報の提供ができるよう、継続していきたい。	B									健康課			
28	37	5	こどもクッキング	未就学児とその保護者を対象に、調理・試食を含む栄養教室を行う。	実施回数：1回 参加者数：大人1	緊急事態宣言のため中止で1回のみ食事相談に振り替えた。飲食ができない想定では、作って食べるという一連の流れは難しく、デモと講義など内容を変更せざるを得ない。	D	実施回数：3回 参加者数：26人（親子13組）	2～3歳と3～5歳という枠で募集している。試食がなくても調理体験などで参加者が楽しめるよう工夫していきたい。	C									健康課			
29	37	6	乳幼児保健相談（のびのび広場相談）	乳幼児を対象に、地域センター等で計測を行い、希望者に保健師・管理栄養士等が相談を行う。	実施回数：40回 実施者数：196人 実施場所：貫井南センター、東センター、婦人会館、前原暫定、丸山台集会所、上水会館、保健センター	緊急事態宣言中は、中止。実施は全て予約制で人数制限	C	実施回数：29回 実施者数：164人 実施場所：貫井南センター、東センター、婦人会館、保健センター	令和4年度より丸山台集会所、上水会館の2か所が追加となるのでより多くの方に対応可能となる予定。	B									健康課			
30	37	7	栄養個別相談	管理栄養士によるアレルギー食や子どもの食事相談を行う。	実施回数：12回 実施者数：15人 実施場所：保健センター	必ずしも年間予定の日ばかりではなかったが、不在以外是对応している。他に電話対応は、98件あった。	B	実施回数：10回 実施者数：22人 実施場所：保健センター	必ずしも年間予定の日ばかりではなかったが、不在以外是对応している。他に電話対応は、115件あった。	B									健康課			
31	37	8	エンジェル教室	5か月児とその保護者を対象とした育児知識等の各種講習の中で、離乳食の講義・試食を行う。	実施回数9回（2日間コースの内1日） 参加者数（延数）大人102人、子ども101人 ※新型コロナウイルス感染症予防対策のため、3回（4～6月）は中止 子どもの口の発達に見合った離乳食の形状や食べさせ方を知ることにより、負担なく離乳食を進められることをめざす。	新型コロナウイルス感染症対策のため、試食は実施しなかった。試食メニューの写真を見てもらいながら作り方や進め方などを詳しく説明した。コロナ禍で相談する機会が少ないとの声に応え、質疑応答をより充実するようにした。 周知方法として3～4か月健診時にひらば食や食べさせ方を知ることにより、負担なく離乳食を進められることをめざす。	B	実施回数24回（2日間コース） 参加者数（延数）大人131人、子ども121人 子どもの口の発達に見合った離乳食の形状や食べさせ方を知ることにより、負担なく離乳食を進められることをめざす。	栄養士に質問できる時間をつくり、母親の不安感の軽減につながったと思われる。試食の中止（新型コロナウイルス感染症予防対策のため）が続く中で、すりつぶし体験や食に対する情報提供を行うことで、離乳食づくりの負担軽減につなげる。	B								子育て支援課 (子ども家庭支援センター)				

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※ 1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)	
生涯にわたる食育推進					①乳幼児と保護者の食育推進			イ保育所・幼稚園等			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
32	38	1	年間食育計画を もとにした食育	食育計画や年間行事計画を作成し、子どもの発達に応じた食育事業を実施する。	食育計画や年間行事計画を作成し、子どもの発達に応じた食育事業を実施する。	今後も継続して取り組んでいく。	B	年間を通して子どもたちと食を共にすることから一食一食を大切にすることはもちろんのこと、年間の計画を作成し、体系的に食育事業を実施した。	今後も継続して取り組んでいく。	B		○	○	○				保育課
33	38	2	収穫体験	農業体験として園児が収穫したイモを、調理して食べる。	農家の方の協力による芋ほりや園庭で育てた野菜等を子どもが収穫体験し、それらの食材を給食で使用した(公立全5園各5回以上開催)。 収穫から体験することで、生産者への感謝や食に対する興味の向上が図れた。	今後も継続して取り組んでいく。	B	農家の方の協力による芋ほりや園庭で育てた野菜等を子どもが収穫体験し、それらの食材を給食及びクッキング保育で使用した(公立全5園各5回以上開催)。 収穫から体験することで、生産者への感謝や食に対する興味の向上が図れた。	今後も継続して取り組んでいく。	B						○	○	保育課
34	38	3	給食だより	給食だよりを配布・掲示する。特に、食育月間・食育の日の取組を行う。	毎月、給食だよりを発行し、保護者の食に対する不安解消や家庭での食育の充実を図れるよう情報提供を行った。	保護者が食に対して興味を持てるよう、今後もさらに内容を充実していく。	B	毎月、給食だよりを発行し、保護者の食に対する不安解消や家庭での食育の充実を図れるよう情報提供を行った。	保護者が食に対して興味を持てるよう、今後もさらに内容を充実していく。	B		○	○	○				保育課
35	38	4	クッキング保育	園児がクッキング体験をし、食の知識やその大切さを学ぶ。	例年行っている園児のクッキング体験は、新型コロナウイルス感染拡大のため、実施しなかった。	新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、事業の実施について検討する。	D	新型コロナウイルス感染拡大防止策をとりながら可能な範囲で実施した。	新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、可能な範囲で実施する。	B			○	○				保育課
36	38	5	食物アレルギー 等の個別相談	必要に応じて保護者と個別に相談し、給食に反映させる。	食物アレルギーがある子どもの保護者と個別に随時面談を行い、医師による生活管理指導表に基づいた対応で給食に反映させた。	今後も保護者と連携を密にとり、対応していく。	B	食物アレルギーがある子どもの保護者と個別に随時面談を行い、医師による生活管理指導表に基づいた対応で給食に反映させた。	今後も保護者と連携を密にとり、対応していく。	B			○	○				保育課
37	38	6	栄養士による出 前講座	市立保育園の栄養士が児童館に出向き、食育相談を行う。	新型コロナウイルス感染拡大のため、実施しなかった。	新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、事業の実施について検討する。	D	新型コロナウイルス感染拡大のため、実施しなかった。	新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、事業の実施について検討する。	D		○	○	○				保育課
38	38	7	生産者・食材納 品業者等との交 流	地域の生産者・食材納品業者等と園児がふれあい、特に野菜や魚の実物が見られるよう配慮する。	農家の方にご協力をいただき芋掘りを行い、給食の食材として利用した。 さつまいも掘り 5園	今後も取り組みを工夫し、より充実したものにしていく。	B	農家の方にご協力をいただき芋掘りを行い、給食の食材として利用した。 じゃがいも掘り 5園 さつまいも掘り 5園	今後も取り組みを工夫し、より充実したものにしていく。	B						○	○	保育課
39	38	8	地域向け食育活 動	離乳食、幼児食、アレルギー食等について、地域からも参加できる食育相談や講習会、試食会を実施する。	例年、地域の子育て中の人を対象に、全5園で園庭開放利用者や見学者の食育相談を行ったり、一時保育利用者の相談を行うなど、地域の人が参加できる食育相談を行ってきたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、実施しなかった。	新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、事業の実施について検討する。	D	例年、地域の子育て中の人を対象に、全5園で園庭開放利用者や見学者の食育相談を行ったり、一時保育利用者の相談を行うなど、地域の人が参加できる食育相談を行ってきたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、実施しなかった。	新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、事業の実施について検討する。	D		○	○	○		○	○	保育課
40	38	9	地域連携の推進	私立的保育所・幼稚園等との連携を推進する。	保健センター(健康課)の管理栄養士と公立保育園栄養士との連携を取り、市の方向性を統一できるように努めた。	保健センターの管理栄養士との連携をより深め、保育園での活動など情報を発信する等も検討する。学校栄養士との情報交換を目指す。	B	保健センター(健康課)の管理栄養士と公立保育園栄養士との連携を取り、市の方向性を統一できるように努めた。	保健センターの管理栄養士との連携をより深め、保育園での活動など情報を発信する等も検討する。学校栄養士との情報交換を目指す。	B				○				保育課
41	38	10	家庭と協働した 食育支援	望ましい食習慣の取組ができるよう支援する。	園ごとに保育園給食のおすすめレシピや旬の食材等を紹介。保護者向けに展示やレシピメモを配布し乳幼児食への理解促進に努めた。	今後も更なる内容の充実にも努め、様々な機会を活用し情報発信していく。	B	園ごとに保育園給食のおすすめレシピや旬の食材等を紹介。保護者向けに展示やレシピメモを配布し乳幼児食への理解促進に努めた。	今後も更なる内容の充実にも努め、様々な機会を活用し情報発信していく。	B			○	○				保育課

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課				
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※ 1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)					
生涯にわたる食育推進 ①乳幼児と保護者の食育推進 ウェルビーイング															①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
42	38	1	子育て相談会	保護者に対する食事や栄養を テーマにした専門家による講 演会及び相談会を行う。	【本町児童館】 離乳食講座 2回/20人 【東児童館】 離乳食講座等 3回/45人 (・離乳食講座(2回/32人) ・くりのみミニ講座(1回/13人)) 【貫井南児童館】 離乳食講習会 2回/10人 【緑児童館】 離乳食講習会等 4回/84人 (・離乳食講習会(2回/28人) ・幼児食講習会(1回/21人) ・冬の健康相談会(1回/35人))	新型コロナウイルス感染症の影響で上半 期の実施や調理・試食スタイルを中止し た他、定員を半数以下に設定して実施し た。次年度も感染対策を継続しつつ実施 していく。	C	【本町児童館】 離乳食講座等 4回/32人 ・離乳食講座 2回/14人 ・幼児食講座 2回/18人 【東児童館】 離乳食講座 3回/32人 【貫井南児童館】 離乳食相談会 2回/19人 【緑児童館】 離乳食講習会等 5回/69人 ・離乳食講習会 3回/22人 ・食育相談会 2回/47人	新型コロナウイルス感染症の影響で調 理・試食スタイルを中止した他、定員を 半数以下に設定して実施した。 次年度も感染対策を継続しつつ実施して いく。	B		○	○					児童青少年課				
43	38	2	乳幼児食事会	子育てひろばや幼児グループ で行う食を通じての交流会 (情報を交換し、食育に対す る理解を深める)を行う。	中止	新型コロナウイルス感染症の影響で調理 や喫食のある事業は中止した。次年度も 感染対策をしつつ実施できる場合は継続 して実施していく。	C	中止	新型コロナウイルス感染症の影響で調理 や喫食のある事業は中止した。 子育てひろばの「たより」にて会食メ ニューを掲載紹介した。 次年度も感染対策をしつつ実施できる場 合は継続して実施していく。	C		○					児童青少年課					

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※ 1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)	
生涯にわたる食育推進 ②学齢期の食育推進 ア小学校																		
44	39	1	学校における食育の推進と情報発信	学習指導要領に基づく学校ごとの食に関する全体計画を作成し、積極的に食育の推進を図る。	農家見学等、一部実施が困難なものもあったが、小学校では食に関する全体計画をもとに、生活科の学習や野菜を育てる体験学習を実施した。コロナ禍において、食育の目標達成が困難なものもあった。	C	新学習指導要領を踏まえて、改めて食育に関する指導内容を系統立て全体計画の見直しを行うよう指導する。	農家の訪問見学など一部実施が困難なものもあったが、食に関する全体計画をもとに、生活科の学習や野菜を育てる体験学習を実施したり、ICT端末を用いて直接体験の代替学習を行ったりすることができた。コロナ禍において、黙食が継続されたため食育の目標達成が困難なものもあった。	コロナ禍においても感染防止対策を十分に行うことによりこれまで難しかった学習についても推進することを検討させる。また、ICT端末を活用した学習についてさらに研究し、実践するよう指導する。	B	○	○	○	○	○	○	指導室	
45	39	2	給食を通じた食育	栄養教諭・食育リーダーを中心に、授業や給食委員会の活動・日々の給食を通して、望ましい食習慣を身につけさせる。	食育リーダー会議では、各校の取組みの情報共有を行った。なお、講演会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催中止となったため、参加していない。	A	食育リーダー会議で検討・作成したリーフレットを市内小中学校全校児童・生徒の保護者へ配布した。	食育リーダー会議では、各校の取組みの情報共有を行った。なお、講演会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催中止となったため、参加していない。	食育リーダー会議で検討・作成したリーフレットを小学校1年生の児童の保護者へ配布した。	A	○	○	○	○	○	○	学務課・指導室	
46	39	3	地域と交流した食育活動	給食だより・校内放送等での取組を含め、地域の生産者等と児童・生徒が交流する。	地域の生産者との交流については、授業の一環として実施している学校がある。引き続き指導室・栄養教諭と連携を取り、食育推進等の支援をする。	B	地域の生産者等との交流については、引き続き授業の一環として実施できるよう小中学校や指導室に協力を求める。	地域の生産者等との交流については、授業の一環として実施している学校がある。引き続き指導室・栄養教諭と連携を取り、食育推進等の支援をする。	地域の生産者等との交流については、引き続き授業の一環として実施できるよう小中学校や指導室に協力を求める。	B	○	○	○	○	○	○	学務課・指導室	
47	39	4	家庭と協働した食育支援	望ましい食習慣の取組ができるよう支援するため、給食だより等の情報提供を充実させる。	小中学校全14校で給食だよりを毎月発行している。	A	今後も継続していく。	小中学校全14校で給食だよりを毎月発行している。	今後も継続していく。	A	○	○	○	○	○	○	学務課	
48	39	5	栄養講習会(親子クッキング教室)	小学生とその保護者を対象に、生活習慣病予防につながるテーマについて講義・実習・試食を行う。	中止	D	安全に配慮し、中止した。	実施者数：3組	コロナ禍でのお子さん対象の事業のため、集客が難しかった。来年度は対象年齢を下げて実施予定。	C	○	○	○	○	○	○	健康課・学務課	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があつたと思われる 食育の視点 ※2							担当課		
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※ 1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)			
生涯にわたる食育推進 ②学齢期の食育推進 イ学童保育所・児童館 ウ公民館											①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
49	39	1	食育指導 (学童保育所)	食べることを通して、団らんの楽しさ、作ることの楽しさ、食べることの楽しさを仲間と分ち合う。	各学童保育所ごとと日常のおやつとは別に1回は食育の日を決めて、テーマをもって食育に取り組み、食にまつわると、季節を感じることから食卓育、マナーまで幅広くを学んでいる。	B	各学童保育所ごとと日常のおやつとは別に月に1回は食育の日を決めて、テーマをもって食育に取り組み、食にまつわること、季節を感じることを学んでいる。	B	各学童保育所ごとと日常のおやつとは別に月に1回は食育の日を決めて、テーマをもって食育に取り組み、食にまつわること、季節を感じることを学んでいる。	B			○	○					児童青少年課	
50	39	2	料理教室 (児童館)	主に小学生から中・高校生までを対象として手作りを基本とした料理教室を行い、作り方を指導し、食を共にしながら相互に交流を図る。また、地場野菜等を通じた生産者との交流や環境に配慮した料理教室等を実施する。	【本町児童館】 ・幼児グループいも掘り (2回/47人) 【東児童館】いも掘り 6回/110人 ・幼児グループいも掘り (2回/60人) ・低学年グループいも掘り (2回/43人) ・高学年グループいも掘り (2回/7人) 【貫井南児童館】 ・幼児グループいも掘り (2回/20人) 【緑児童館】 ・幼児グループ農業体験 (2回/40人)	C	新型コロナウイルス感染症の影響で調理や喫食のある事業は中止した。次年度も感染対策をしつつ実施できる場合は継続して実施していく。	C	【本町児童館】 ・幼児グループいも掘り (4回/62人) 【東児童館】いも掘り 11回/226人 ・幼児グループいも掘り (4回/145人) ・低学年グループいも掘り (6回/71人) ・高学年グループいも掘り (1回/10人) 【貫井南児童館】 ・幼児グループいも掘り (4回/62人) 【緑児童館】 ・幼児グループ農業体験 (4回/80人)	B	新型コロナウイルス感染症の影響で調理や喫食のある事業は中止した。 次年度も感染対策をしつつ実施できる場合は継続して実施していく。	B			○					児童青少年課

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)	
生涯にわたる食育推進 ③青年期から高齢期の食育推進 ア青年期の食育推進											①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
51	40	1	学校における食育の推進と情報発信[再掲]	学習指導要領に基づく学校ごとの食に関する指導全体計画を作成し、積極的に食育の推進を図る。	中学校では、食に関する全体計画をもとに、保健体育の時間に健全な心身の成長を図るための学習を実施した。家庭科の時間には、健康的に暮らすために健全な食生活の実現についての学習を実施した。	B	中学校においても新学習指導要領が全面实施となることから、改めて食育に関する指導内容を系統立て全体計画の見直しを行うよう指導する。	学習指導要領に示された内容を踏まえ、改めて食育に関する指導内容を系統立て全体計画の見直しを行うよう指導する。	B		○	○	○		○		指導室	
52	40	2	給食を通じた食育[再掲]	栄養教諭・食育リーダーを中心に、授業や給食委員会の活動・日々の給食を通して、望ましい食習慣を身につけさせる。	食育リーダー会議では、各校の取組みの情報共有を行った。なお、講演会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催中止となったため、参加していない。	A	食育リーダー会議では、各校の取組みの情報共有を行った。なお、講演会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催中止となったため、参加していない。	食育リーダー会議で検討・作成したリーフレットを小学校1年生の児童の保護者へ配布した。	A		○	○	○		○	○	学務課・指導室	
53	40	3	地域と交流した食育活動[再掲]	給食だより・校内放送等での取組を含め、地域の生産者等と児童・生徒が交流する。	地域の生産者との交流については、授業の一環として実施している学校がある。引き続き指導室・栄養教諭と連携を取り、食育推進等の支援をする。	B	地域の生産者等との交流については、引き続き指導室・栄養教諭と連携を取り、食育推進等の支援をする。	地域の生産者等との交流については、引き続き授業の一環として実施できるよう小中学校や指導室に協力を求める。	B				○		○	○	学務課・指導室	
54	40	4	家庭と協働した食育支援[再掲]	望ましい食習慣の取組ができるよう支援するため、給食だより等の情報提供を充実させる。	小中学校全14校で給食だよりを毎月発行している。	A	小中学校全14校で給食だよりを毎月発行している。	今後も継続していく。	A		○	○	○		○	○	学務課	
55	40	5	ミニパンフレットによる情報発信	青年期向けの食育に関するミニパンフレットを作成し、関係機関に配する。	昨年と同じ青少年向けミニパンフレットを成人式(中止のため、取りに来た方のみ)で800部用意したが取りに来た数は現在155部。(令和3年5月12日現在)	C	青少年向けミニパンフレットを成人式(中止のため、取りに来た方のみ)で800部用意した。	来年度も今年度同様、成人式での配布を行う予定である。	B		○		○	○	○		健康課	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課				
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※ 1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)					
生涯にわたる食育推進 ③青年期から高齢期の食育推進 イ成人・高齢者の食育推進															①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
56	41	1	栄養個別相談	生活習慣病等、個人のニーズに合わせた栄養に関わる相談を行う。	実施回数：12回 実施者数：12人	月1回の決められた日時にくるのは、難しいという意見もあり、聞きたいときに電話ですませたい方も多し。電話や窓口に来たついでの方には、可能な限り、対応している。なお、電話相談は9件だった。	B	実施回数：10回 実施者数：19人	月1回の決められた日時にくるのは、難しいという意見もあり、聞きたいときに電話ですませたい方も多し。電話や窓口に来たついでの方には、可能な限り、対応している。なお、電話相談は9件だった。	B		○	○	○	○			健康課				
57	41	2	栄養講習会	生活習慣病や健康づくりに関するテーマを設定し、テーマに合わせた栄養講義や調理実習を行う。	実施回数：3回 参加者数：17人	コロナ禍のため、事業自体が中止になったり、定員を減らして調理実習から講義とデモンストレーションに変更したので集客も難しかった。(なお、積極的な動員は行っていない。)	C	栄養講習会：5回(小学生とその保護者むけを除く)参加者数：33人	定員は昨年同様、調理実習・試食はなしだが、講義とデモで引き付けるだけではなく、参加者にも感染対策の上、短い時間ではあるが、アンケートだけではなく、直接意見なども伺ってきたい。	B			○	○	○	○		健康課				
58	41	3	健康づくりフォローアップ指導教室	糖尿病や骨粗しょう症など、疾病や年齢に合わせた栄養講義を行うことにより、疾病の予防や健康に対する意識の啓発、生活習慣の改善を支援する。	糖尿病予防教室7人 骨粗しょう症予防教室：中止 いきいき健康教室：5人 血管若返り教室：8人 親子健康教室：中止 ボディメイク教室：9人 計29人	コロナ禍のため、積極的な動員は行っていない。	C	糖尿病予防教室：9人 骨粗しょう症予防教室：8人 いきいき健康教室：7人 血管若返り教室：中止 親子健康教室：中止 ボディメイク教室：9人 計33人	昨年に引き続き、コロナ禍のため、積極的な動員は行っていない。	B		○	○	○	○		健康課					
59	41	4	特定保健指導	特定健康診査において生活習慣病を発病するリスクが高い結果となった方に対して、特定保健指導を行うことにより、疾病の予防や早期発見、健康に対する意識の啓発、生活習慣の改善を支援する。	特定保健指導対象者数 動機付け支援：610人 積極的支援：168人 特定保健指導利用者数 動機付け支援：113人 積極的支援：20人	特定健康診査において生活習慣病を発病するリスクが高い結果となった方に対し、特定保健指導を行った。今年度は、新たに未受診者に対しアンケート調査を実施したため、今令和3年度以降の受診率向上に生かしていきたい。	B	特定保健指導対象者数 動機付け支援：601人 積極的支援：196人 特定保健指導利用者数 動機付け支援：121人 積極的支援：18人	特定健康診査において生活習慣病を発病するリスクが高い結果となった方に対し、特定保健指導を行った。今後も特定保健指導の利用率が向上するよう利用動員を行い、管理栄養士・保健師と共に、対象者にあった食生活の見直し等を行う。	B		○	○	○			保険年金課					
60	41	5	成人学校	食に関する様々なテーマを取り上げた講座等を開催する。	成人学校 共働夢農園 「野菜作りコース」 令和2年6月4日～令和3年3月11日 原則毎週水曜日実施(主催講座全8回、その他は自主活動) 主催講座実施回数8回 延べ参加者170人	平成13年度からスタートし18年を経過したところで見直しを行った。令和2年度を最終年度とし、令和3年度から貫井南分館の「江戸野菜に親しもう」と統合し、発展的に新規事業の展開を目指す予定であったが、学芸大学が使えなくなり、頓挫した。	B	令和3年度以降は、菜園教室に統合した。	—									公民館				
61	41	6	成人学校「菜園教室」	【目的】額に汗しながら土に親しみ、野菜の共同栽培を通じて作る喜びを分かち合います。また、土起こしから収穫までを体験しながら、「食」・「農」・「人の和」などに目を啓き、認識を深める。 【対象】市内在住・在勤・在学の方	令和2年6月3日～令和3年3月10日まで(全36回) 延べ参加者715人	今後も継続して行う予定をしている。		令和3年4月14日～令和4年3月9日 原則毎週水曜日実施(全40回) 延べ参加者570人 ○額に汗しながら土に親しみ、野菜の共同栽培を通じて作る喜びを分かち合う。 ○土起こしから収穫までを体験しながら「食」・「農」・「自然」・「人の和」などに目を啓き、認識を深める。	第4次小金井市生涯学習推進計画の中の「公民館を活用する学びの推進」で野菜づくり講座を事業の柱として位置付けていることから、貫井南分館の「江戸野菜に親しもう」と及び緑分館の「共働夢農園」を本館で1本化して統合した。	B						○	○	公民館				
62	41	7	6024・8020運動の推進	生涯を通じて健康的な食生活が実践できるよう、60歳で24本以上、80歳で20本以上の歯がある方の増加を目指す。	歯周疾患の早期発見に努め、生涯を通じて、自分の歯で過ごすことができるようにするため成人歯科健診を実施した。コロナ禍にも関わらず、多くの方が受診された。 受診者数：2,206人	昨年同様、20歳から80歳までの5歳刻み節目年齢の方を対象に実施した。対象年齢について検討を図りながら、今後も継続して実施する。また、8020運動と共に、6024運動も推進していく。	A	歯周疾患の早期発見に努め、生涯を通じ、自分の歯で過ごすことができるようにするため成人歯科健診を実施した。コロナ禍のため減少傾向と思われたが、受診者と対象者の割合は昨年とほぼ同じだった。 受診者数：1,829人	昨年同様、20歳から80歳までの5歳刻み節目年齢の方を対象に実施した。対象年齢について検討を図りながら、今後も継続して実施する。また、8020運動と共に、6024運動も推進していく。	B				○			健康課					

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※ 1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)	
63	41	8	配食サービス	精神障がい者配食サービス 配食数：3,791食	安否確認や栄養に配慮した食事を届ける ことについては重要であると考えたため、 今後も継続する。	B	精神障がい者配食サービス 配食数：3,929食	安否確認や栄養に配慮した食事を届ける ことについては重要であると考えたため、 今後も継続する。	B				○				自立生活支援課	
				高齢者や精神障がい者の健康的な食生活と安否確認等のため食事の配達を行うことにより、自立した食生活を支援する。	食の自立支援事業 24,952食 (269人) (65歳以上で介護の要支援以上の方に週3 回夕食を配る)、 59食 (2人) (65歳以上で介護の要支援以上 の方に週4回～6回夕食を配る) 緊急配食サービス 33食 (8人) (退院などの理由で1週間程度配食する)	B	食の自立支援事業 24,099食 (268人) (65歳以上で介護の要支援以上の方に週3回 夕食を配る)、 631食 (10人) (65歳以上で介護の要支援以上 の方に週4回～6回夕食を配る) 緊急配食サービス 11食 (3人) (退院などの理由で1週間程度配食する)	配食を利用すると、その利便性から外出の 機会が減ることから、会食会を開き、 近場を散策した後、利用者同士で食事を 摂ることで、外出の機会を増やし、生き がいくつくりを支援したが、令和2年11月 以降は、新型コロナウイルス感染症の拡 大防止により、会食会を休止し、茶話会 として実施している状況が続いている。 食の自立支援事業については、見込み数 を超える数で推移しており、今後の事業 の体制確保が課題である。	B	配食を利用すると、その利便性から外出 の機会が減ることから、会食会を開き、 近場を散策した後、利用者同士で食事を 摂ることで、外出の機会を増やし、生き がいくつくりを支援したが、令和2年11月 以降は、新型コロナウイルス感染症の拡 大防止により、会食会を休止し、茶話会 として実施している状況が続いている。 一日おおむね80食という委託内容である が、それを超える利用者数となっている。 今後の受入れ体制の確保が課題である。 令和2年度より、週4回から週6回の配 食サービスも行っている。			○	○				介護福祉課
新			介護予防・フレイル予防普及啓発	高齢者が介護予防の知識を得て、地域でできるだけ自立した生活が継続できるよう高齢者が参加している通いの場に保健師が出向き、介護予防・フレイル予防の知識(栄養・口腔)についての講話を行う。			小金井さくら体操管理会場・完全自主会場1 4会場において実施 202人	小金井さくら体操管理会場の会場において介護予防の知識(栄養・口腔)について啓発を行った。さくら体操の自主グループ以外の通いの場等においても広く啓発を行う。			○		○				介護福祉課	
64	41	9	ミニパンフレットによる情報発信	高齢者向けの食育に関するミニパンフレットを作成し、関係機関に配する。			新規の項目のため、実績なし。	今まで高齢者関係の事業や他課からの要請には、多摩府中保健所からいただいた資料で対応してきたが、在庫もなくなったことやカラーでのダウンロードができないことから2～3年以内に簡単なちらしを作成したいと考えている。				○	○	○	○	○	健康課	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和2+年度進捗状況			令和3年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課								
					令和2年度事業実績 (具体的な数値等)	令和2年度に実施した取組み 及び 令和3年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和3年度事業実績 (具体的な数値等)	令和3年度に実施した取組み 及び 令和4年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※ 1	①	② (旧の)	③ (旧の)	④ (旧の)	⑤	⑥ (旧の)	⑦ (旧の)									
5 計画の推進に向けて																										
(1) 施策の推進体制																										
65	42	1	食育推進会議	食育推進会議を継続して開催し、本計画の進捗状況を確認するとともに、必要な推進策を検討する。	会議を年2回しか開催できなかった。市民アンケート及び小中学生アンケートについては、実施できた。	C	令和3年度もコロナ禍のため、1回のみ書面開催としたが、全4回開催することができた。また、委員の任期が1月末のため、それに合わせて4回目を1月末とした。タイトな日程だったが、食育計画の策定を予定どおり終了することができた。	今後も計画策定の子定と連動して会議を開催していきたい。	A	○	○	○	○	○	○	○	健康課									
66	42	2	食育コーディネータの設置	食育に関する関係機関等との連携を促進する。	令和2年度活動実績：4件 依頼もほぼ来ないのに等しい状況だった。	C	令和3年度活動状況：6件 コロナ禍を反映しているせいか、依頼が少なかった。	今後も引き続き継続していく。	B	○	○	○	○	○	○	○	健康課									
67	42	3	食育推進検討委員会	市の食育推進事業の円滑な推進を図るため、関係課による食育推進検討委員会を開催する。	コロナ禍のため、食育推進会議が年2回しか開催できなかったため、関係課による食育推進検討委員会を開催するところまでたどり着けなかった。	D	令和3年度の会議は書面会議1回だけだが、各課担当者とは、計画策定中、何度も確認等のやり取りを行った。	次回計画策定の際には、書面開催でももう少し回数を増やしたい。	B	○	○	○	○	○	○	○	健康課									
68	42	4	大学等との連携推進	若年層に対する対策及び食育に関する実態等の継続的な研究推進のため、大学等との食育推進事業の連携を推進する。	今年度も昨年同様、青少年向けパンフレットを成人式で配布することができた。	B	今年度はいままでのパンフレットを増刷りして配布をした。	令和4年度まで配布分があるので、次に作成する令和5年以降となるのでその時には、協力を求めたい。	C	○	○	○	○	○	○	○	健康課									